

令和7年度 学校推薦型選抜 I 本問題 問題1 解答例

[問1]

国民の所得向上によって、食生活の多様化が進み、自給率の高いコメの消費が減少する一方で、消費が拡大してきたのは畜産物と油脂である。特に畜産物は国内で生産された場合でも、輸入飼料で生産された畜産物は、カロリーベースの食料自給率に算入されない。そのため、トウモロコシなどの飼料を海外に極端に依存しているわが国の畜産物の自給率は極めて低いことから、カロリーベースの食料自給率の全体の低迷につながっている。

(198 字)

《ポイント》

食生活の変化：

食の西洋化や多様化、コメの消費減少と畜産物の消費拡大

畜産物の自給率：

国内で生産された畜産物でも、輸入飼料で生産された畜産物は、カロリーベースの食料自給率に算入されないため、畜産物の自給率は低い。畜産物の自給率が低いことが食料自給率全体の低迷につながっている。

[問2]

畜産農家は耕種農家が生産した飼料を利用することにより、大きな労力の負担を負うことなく、国産飼料（粗飼料や濃厚飼料）を利用できるため、輸入飼料への極端な依存から脱却できる。一方、耕種農家は畜産農家から排出される家畜排泄物を堆肥として利用することにより、化学肥料や土壌改良剤の使用量の低減化を図ることができる。このように、飼料や肥料の高騰対策として、「耕畜連携」の取組みの重要性は一層高まっている。

(197 字)

《ポイント》

畜産農家：

畜産農家は、耕種農家が飼料生産を担うことによって、大きな労力の負担を負うことなく、国産飼料を入手できる。

耕種農家：

耕種農家は、畜産農家から排出される家畜排泄物を堆肥として利用することにより、化学肥料などの低減化につながる。

[問3]

地球温暖化などの異常気象によるトウモロコシなどの減収、中国などの穀物需要の増大、世界有数の穀倉地帯であるウクライナへのロシアによる軍事進攻、船賃の上昇や歴史的な円安状況下などが要因となっている。

(97 字)

《ポイント》

主な要因：

異常気象による飼料の減収、穀物需要の増大、ウクライナ問題、船賃の上昇、円安など

以上

2025（令和 7）年度 学校推薦型選抜Ⅰ 小論文 本問題 2 解答例

〔問 1〕

昭和 30 年代以前は、主なエネルギー源として薪炭や農地の肥料を里山林から調達してきた。その後、エネルギー革命が起きて、昭和 30 年代以降には、石油、ガス、電気がエネルギー源として利用されるようになった。一方、農地では化学肥料が普及した。こうした昭和 30 年代以降の生活様式や生産活動の変化によって、里山林の資源が利用される機会が減少し、近年は里山林の荒廃が進んでいる。（178 字）

※エネルギー革命に関係した設問であり、①下線部前後の文章を参考にまとめる。

〔問 2〕

熱帯域の発展途上国では、日本などの紙・板紙の需要に応えるために、熱帯の天然林を開墾して、パルプ用材となるユーカリなどの早生樹の一斉造林の大規模プランテーションを造成してきた。早生樹の一斉造林の大規模プランテーションを造成することによって、生物多様性の喪失、野生動物の生息地の減少、生態系の変化、地域住民による在来種の多様な果樹類などの伝統的な林産物利用と収入源の減少などが懸念されている。（194 字）

※ユーカリ、アカシアなどの具体的な樹種を記述しなくても、問題文に記載してありとおり、パルプ用材となる早生樹としても良い。

〔問 3〕

単一樹種の針葉樹が大面積に一斉造林されている人工林では、スギ花粉症被害が深刻化している。また、地力が低下することから、地震や台風によって、地滑りや土砂崩れなどの災害発生が懸念される。（91 字）

※問題として、スギ花粉症被害、地滑りや土砂崩れなどが挙げられる。また、集中的に造成された人工林の齢級構成の偏りから、持続可能な林業経営が困難とされること、さらに、林業従事者の減少、林業採算性の悪化、伐期適齢期に達した成熟林の放置や手入れ不足なども問題として解答となる。

以上